

FUJITSU Software

Interstage Information Integrator Standard Edition V11a (V11.3.3)

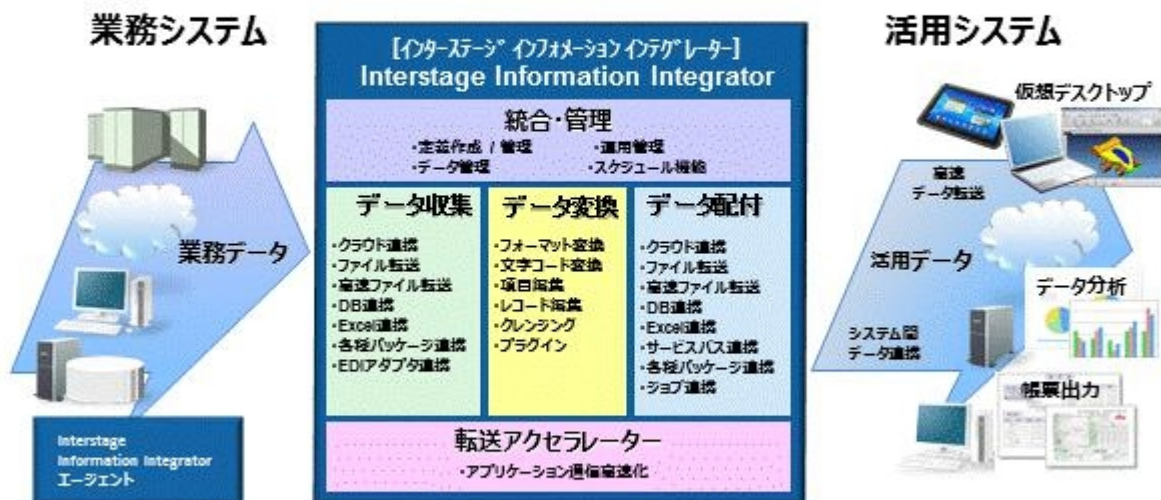
Interstage Information Integrator エージェント V11a (V11.3.3)

Interstage Information Integratorは、業務システムで発生した多様なデータを収集・統合し、必要なときに必要な形で利用者に配付するデータ収集・統合管理ソフトウェアです。

競争の激化、リスク管理への取り組み、IT社会の進展など、企業を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。その中で、コストを削減し、利益を拡大していくために、情報活用への要件は、より広範囲に、より早く、より正確にと、高度になってきています。

Interstage Information Integratorは、様々なシステムから収集したデータを、利用者のニーズの変化に合わせて柔軟に変換・配付することができます。また、データの収集・変換・配付の処理定義や、運用管理情報を統合・管理することにより、様々な情報システムに「価値ある情報」をタイムリーに提供します。

Interstage Information Integrator エージェントは、Interstage Information Integrator Standard Edition V11aの連携先業務システムにおけるデータの収集・配付処理の構築・運用を支援します。



- **Interstage Information Integrator Standard Edition サーバ**

SPARC Servers / SPARC Enterprise Mシリーズ / SPARC Enterprise Tシリーズ / FUJITSU Cloud Service for SPARC

- **Interstage Information Integrator エージェント**

SPARC Servers / SPARC Enterprise Mシリーズ / SPARC Enterprise Tシリーズ / FUJITSU Cloud Service for SPARC

- **運用管理クライアント機能**

PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMERGY / FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Cloud Service for SPARC / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- **定義クライアント機能**

PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMERGY / FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Cloud Service for SPARC / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- **転送アクセラレーター機能**

SPARC Servers / SPARC Enterprise Mシリーズ / SPARC Enterprise Tシリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / FUJITSU Cloud Service for SPARC

- **転送アクセラレーターのゲートウェイ機能（他プラットフォームについては留**

意事項参照）

SPARC Servers / SPARC Enterprise Mシリーズ / SPARC Enterprise Tシリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / FUJITSU Cloud Service for SPARC

- **転送アクセラレータークライアント機能**

FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント / スマートデバイス(留意事項参照)

- **Interstage Information Integrator Standard Edition サーバ**

Solaris 11(64bit)

- **Interstage Information Integrator エージェント**

Solaris 11(64bit)

- **運用管理クライアント機能**

Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows 8.1(64-bit) / Windows 8.1

- **定義クライアント機能**

Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows 8.1(64-bit) / Windows 8.1

- **転送アクセラレーター機能**

Solaris 11(64bit)

- **転送アクセラレーターのゲートウェイ機能 (他プラットフォームについては留意事項参照)**

Solaris 11(64bit)

- **転送アクセラレータークライアント機能**

Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows 8.1(64-bit) / Windows 8.1 / スマートデバイス用OS(留意事項参照)

1. セールスポイント

設計書と一体化したデザインシートにより、簡易な定義作成と一元管理を実現

設計書とシステム定義が同時に作成できるデザインシートにより、短期間でシステム構築ができます。また、設計情報と動作中システム内の定義を一元管理できます。

システム間の運用差を吸収して、柔軟なデータの収集・配付を実現

データを宛先別、世代別に一時保存することができるため、運用の異なる様々な業務システムからのデータを収集し、活用側システムの求めるタイミングで配付することができます。

形式や表記が不揃いなデータも、そのまま処理可能

形式が異なる業務システムのデータを、そのまま活用側の求める形式に変換できます。

最新技術により回線能力を最大限に引き出し、データ転送を高速化

独自の最新技術により回線事情（距離・品質）による遅延を解消し、データ転送を高速化することができます。

2. 用語の説明

- ・ Interstage Information Integrator サーバ

Interstage Information Integratorを利用するためのサーバ機能です。収集、変換、配付の一連の処理を行います。

- ・ Interstage Information Integrator エージェント

連携先のシステムで動作し、データの変換・収集を支援するInterstage Information Integratorのオプション製品の機能です。

- ・ 運用管理クライアント機能

Webブラウザを使用して、業務の実行に関する操作や運用状況の監視を行う機能です。

- ・ 定義クライアント機能

デザインシートや定義作成/管理GUIを使用して、定義を作成、登録するための機能です。

- ・ 転送アクセラレーター機能

TCPアプリケーション通信の高速化を行う転送アクセラレーターのサーバ機能です。

- ・ 転送アクセラレーターのクライアント機能

転送アクセラレーター機能をインストールしたサーバと接続し、クライアントアプリケーションの通信を高速化する機能です。

クライアントアプリケーションが動作する機器に導入します。

- ・ 転送アクセラレーターのゲートウェイ機能

転送アクセラレーター機能をインストールしたサーバと接続し、クライアントアプリケーションの通信を高速化する機能です。

クライアントアプリケーションが動作する機器と転送アクセラレーター機能が動作するサーバとの間でゲートウェイとなるサーバに導入します。

3. 収集 / 配付

業務システムを変更せず、データを収集 / 配付します。

メインフレームや他社機、クラウドと連携する豊富な連携・転送プロトコルを用意しています。

【Interstage Information Integrator Standard Edition】

- ・ DB連携（Symfoware、Oracle、SQL Server、DB2、PostgreSQL）

データベースからの全件抽出、条件抽出、およびデータベースへのデータ置換、追加、更新が可能です。

・高速ファイル転送

WAN帯域を最大限利用することにより、遠隔地との間で高速にでのデータ収集・配付が可能です。

多重度制御、自動リトライ、圧縮・解凍、同報配信、集約配信が可能です。

帯域100MbpsでのFTPとの転送速度比：従来の5～14倍（当社調べ）

・ファイル転送

多重度制御、自動リトライ、圧縮・解凍、同報配信、集約配信が可能です。

転送プロトコル：FTP、FTP+、HICS、HULFT、SAN、HTTP、HTTPS

・ジョブ起動

データ配付後にそのデータを処理するジョブを起動します。また、起動されたジョブから通知された結果を管理ことができます。

・クラウド連携

クラウドプラットフォームとのデータ連携が可能です。

クラウド：FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン、Microsoft Azure、Salesforce.com

・Excel連携

Excel形式の業務データから必要なデータだけを収集し、集計レポートを作成・表示することができます

・サービスバス連携（Interstage Service Integrator）

Interstage Information Integrator Standard EditionとInterstage Service Integratorとの間で、ノンプログラミングでデータの受け渡しが可能です。

・各ソフトウェア製品との連携

業務パッケージへ配付するためのデータ収集のテンプレート提供

- SAP

- GLOVIA

データ配付のテンプレート提供

- Interstage Navigator Server(BIソフトウェア)

- Interstage List Creator(帳票設計・生成ソフトウェア)

EDIアダプタ連携

- ACMS EDI-BASE（流通BMSの通信プロトコルをサポートした製品）

【Interstage Information Integrator エージェント】

・DB連携（Symfoware、Oracle、SQL Server、DB2、PostgreSQL）

データベースからの全件抽出、条件抽出、およびデータベースへのデータ置換、追加、更新が可能です。

・ファイル転送

多重度制御、自動リトライ、圧縮・解凍、同報配信、集約配信が可能です。

転送プロトコル：FTP+

・ジョブ起動

データ配付後にそのデータを処理するジョブを起動します。また、起動されたジョブから通知された結果を管理ことができます。

・Excel連携

Excel形式の業務データから必要なデータだけを収集し、集計レポートを作成・表示することができます

4. 転送アクセラレーター機能

業務システムを変更せず、データ転送を高速化する機能を提供します。

【Interstage Information Integrator Standard Edition】

・アプリケーション通信高速化

TCP/IPインターフェースのアプリケーション間のプロキシとして利用することにより、通信距離・回線品質による遅延を解消し、アプリケーションの通信を高速化します。

ネットワーク特性とアプリケーション特性を計測し、最良の性能を発揮するプロトコルを高速に推定し使用するプロトコルを自動選択します。

さらに一度送信したデータを送信側と受信側の双方で保存しておき、二度目からは同じデータを送らない技術（重複除去）や、ファイル圧縮などに使われているデータの圧縮技術（データ圧縮）によりデータ転送量を削減し、通信の高速化を行います。

・転送アクセラレーターのクライアント機能

WindowsPCおよびスマートデバイスのアプリケーションとInterstage Information Integrator Standard Editionを導入したサーバのアプリケーションとの間で高速な通信ができます。

・転送アクセラレーターのゲートウェイ機能

WindowsPCおよびスマートデバイスのアプリケーションの通信をゲートウェイとして中継し、Interstage Information Integrator Standard Editionを導入したサーバのアプリケーションとの間で高速な通信を行ないます。

Windows本機能を利用することで、クライアントアプリケーションが動作する機器（WindowsPCおよびスマートデバイス）に転送アクセラレーターのクライアント機能を導入しなくても、アプリケーションの通信を高速化できます。

・帯域制御

定期的に通信回線の状態を確認し動的に帯域制限を行います。この機能により、他の通信業務への影響を最小限に抑えつつ効率的に回線を活用することができます。

5. 変換

【Interstage Information Integrator Standard Edition / Interstage Information Integrator エージェント】

形式や表記が不揃いな業務データを、情報として活用できる形式に変換します。

・フォーマット変換

バイナリファイル、CSVファイルの相互フォーマット変換が可能です。

・項目編集

項目選択、項目並び替え、項目結合・分割が可能です。

・文字コード変換

EBCDIC、SJIS、EUC、JEF、Unicodeの相互文字コード変換をサポートしています。

IBM日本語文字セットからの文字コード変換も可能です。

・レコード編集

条件抽出、ソート、ジョイン、集計が可能です。

・クレンジング

データ表記の統一や、マスターコードとの比較による置換えが可能です。

6. 統合・管理

統合・管理として、以下の機能を提供します。

・定義クライアント

収集/配付、変換、振分など処理の流れをビジュアルに把握できるGUIやデザインシート(データ処理の設計書)を使って、データ収集、データ変換、データ配付、スケジュールなどを定義登録します。

複数の定義間で整合性を取るために、定義変更による影響箇所の検索・特定が可能です。

適用モデル毎の構築手順に沿った定義画面やパラメタだけを画面に表示し、利用しない機能に関する画面やパラメタを意識せずに定義を作成することができます。

Interstage Service Integratorとの接続のための定義作成/管理が可能です。

業務システムに導入したInterstage Information Integrator エージェントの定義作成/管理が可能です。

。複数の定義間で整合性を取るために、定義変更による影響箇所の検索・特定が可能です。

・データ管理

複数の収集データを一時的に保存・管理することで、処理するデータの単位や時間帯、エラー時のリカバリ方法など運用ルールが異なるシステムとも、システムの運用に影響を与えることなく連携することができます。運用が柔軟になります。

保存したデータをバックアップ、リカバリすることにより、業務再開のためのチェックポイントとして利用することができます。

・運用管理クライアント機能

- Interstage Information Integratorの収集、変換、配付などの業務の実行に関する操作や、運用状況の監視などを、GUIを使って行うことができます。

さらに、業務システムに導入したInterstage Information Integrator エージェントの実行操作や運用状況の監視をGUIを使って行うことができます。

・スケジュール管理

- 定義したスケジュールにもとづく業務の実行が可能です。

・リソース使用状況監視

- Interstage Information Integratorが使用する管理領域(管理DB領域)の使用状況を自動で監視することができます。管理DB領域の使用量がしきい値に達した場合に、アラートを通知します。

7. Interstage Information Integratorの機能と商品の対応

Interstage Information Integratorの機能と商品の対応は以下の通りです。

Interstage Information Integratorの機能と商品の対応

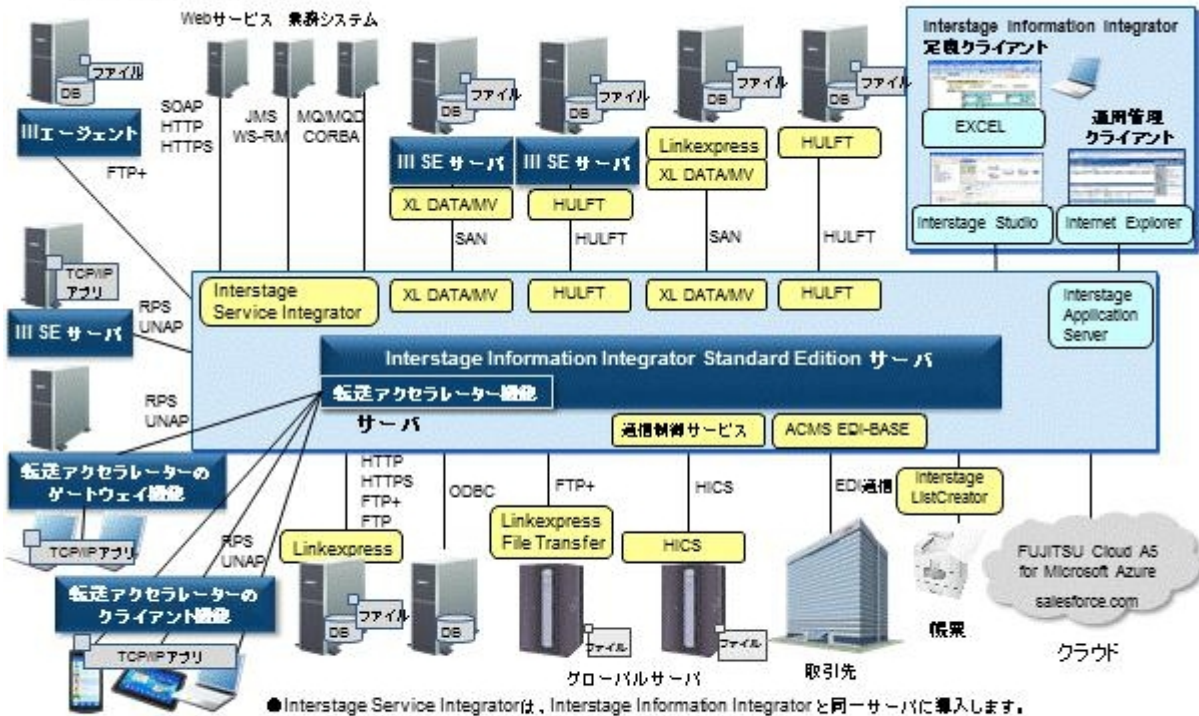
項目		製品	Interstage Information Integrator Standard Edition	Interstage Information Integrator エージェント
			Standard Edition	エージェント
収集/配付	ファイル転送		○	○(FTP+のみ)
	DB連携		○	○(ローカルのみ)
	Excelファイル連携		○	○
	クラウド連携		○	-
	帳票連携		○	-
	Interstage Information Storage連携		○	-
	業務パッケージ連携(SAP)		○	-
	EDIアダプタ連携 (ACMS EDI-BASE)		○	-
	エンタプライズ・サービスバス連携		○	-
	高速ファイル転送		○	-
転送アクセラレーター			○	-
変換			○	○
統合・管理	定義クライアント	定義作成/管理GUI(III Studio)	○	-
		デザインシート	○	-
	運用管理	業務実行操作	○	-
		運用状況監視	○	-
データ管理			○	○
エージェント管理			○	-
スケジュール機能			○	-

○:サポート、-:サポート対象外

8. 利用による効果

データ統合システムを低コストで実現することができます。

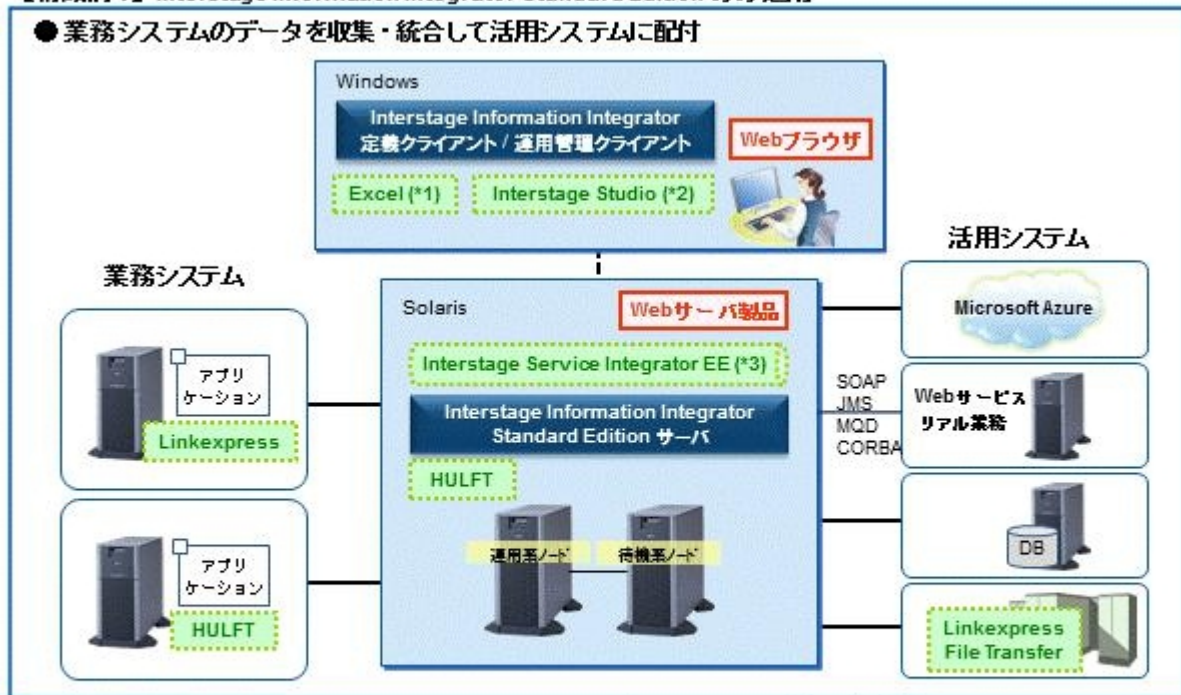
【システム構成全体像】



Interstage Information Integrator Standard Edition サーバ、Interstage Information Integrator エージェント、転送アクセラレーターのゲートウェイ機能および転送アクセラレーターのクライアント機能を組み合わせたシステムの構成例を以下に示します。

【構成例1】 Interstage Information Integrator Standard Edition のみ適用

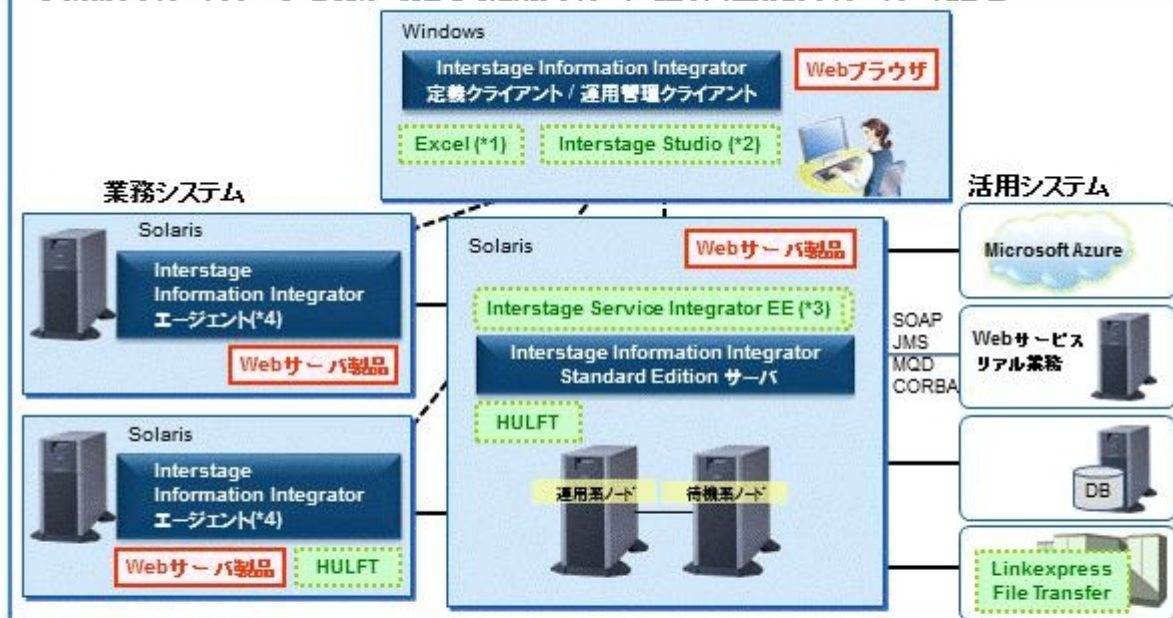
●業務システムのデータを収集・統合して活用システムに配信



- Interstage Information Integrator 定義クライアントは、Interstage Information Integrator サーバと同一のサーバへの導入が可能です。
- 1台の Interstage Information Integrator 定義クライアントに対し、複数台の Interstage Information Integrator サーバを接続して使用することが可能です。また、1台の Interstage Information Integrator サーバに対し、複数台の Interstage Information Integrator 定義クライアントを接続して使用することも可能です。ただし、いずれの場合も同時に複数台接続することはできません。

【構成例2】 Interstage Information Integrator Standard Editionとファイル転送エージェントを適用

●業務システムのデータを収集・統合して活用システムに配信、連携先システムの一元管理

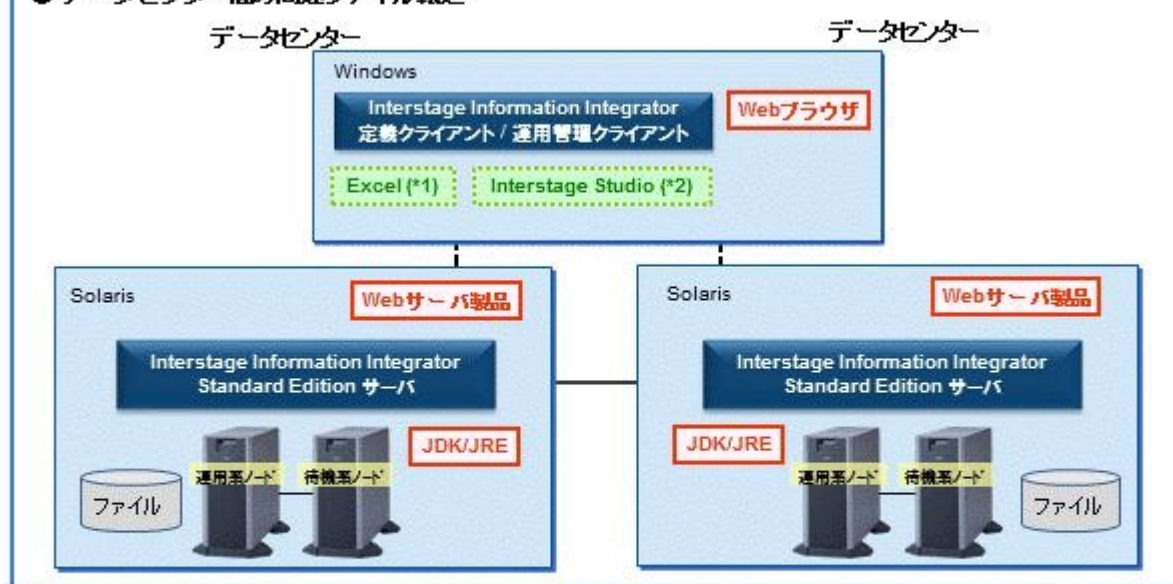


■ 当製品 ■ 必須製品 ■ 関連製品

- *1: デザインシートを使用する際に必要
 - *2: 定義作成管理GUI(III Studio)を使用する際に必要
 - *3: サービスバスによるメッセージ連携運用をする際に必要
 - *4: HULFTやLinkexpressをベースとした手順を製品に置き換え、連携先業務システムの集配信処理の開発を効率化する場合 または Ⅲによる液管理システムとして運用する場合に必要
- Interstage Information Integratorエージェントは、Interstage Information Integratorサーバと同一のサーバへの導入はできません。
 • 1台のファイル転送エージェントに対し、複数台のinterstage information integratorサーバを接続して使用することが可能です。
 また、1台のinterstage information integratorサーバに対し、複数台のinterstage information integratorエージェントを接続して使用することも可能です。

【構成例3】 Interstage Information Integrator Standard Editionをデータセンターサーバに適用

●データセンター間的高速ファイル転送

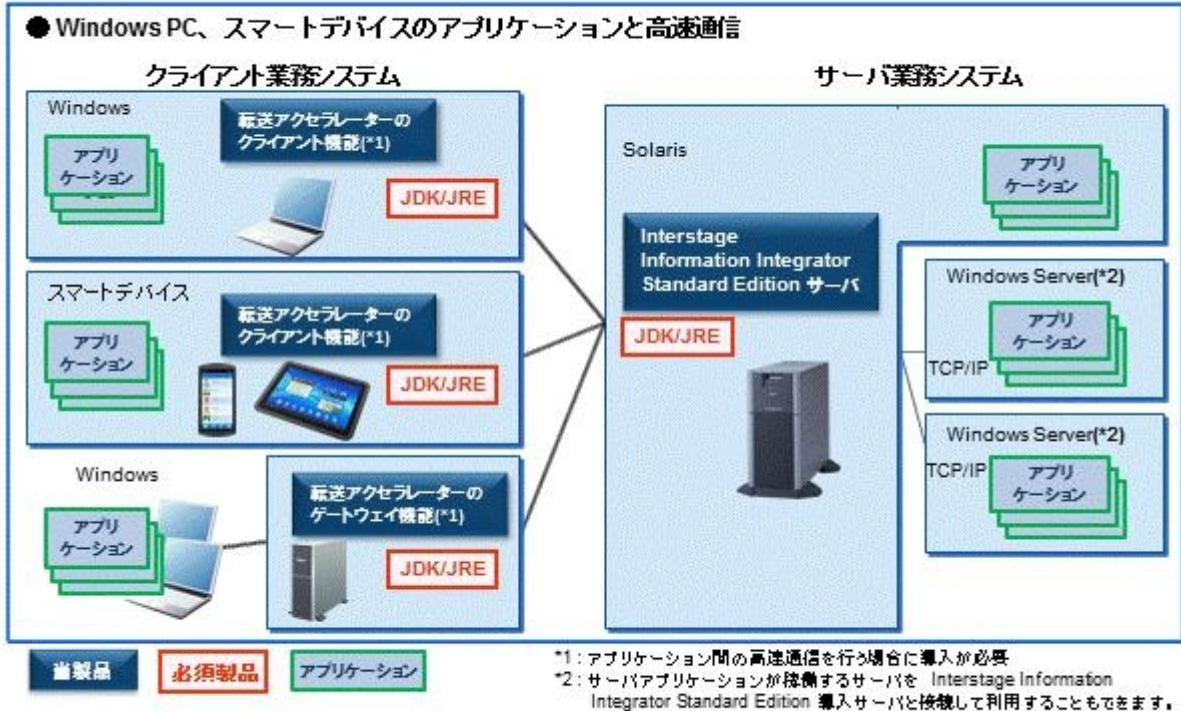


■ 当製品 ■ 必須製品 ■ 関連製品

- *1: デザインシートを使用する際に必要
- *2: 定義作成管理GUI(III Studio)を使用する際に必要

- Interstage Information Integrator定義クライアントは、Interstage Information Integratorサーバと同一のサーバへの導入が可能です。
- 1台のinterstage information integrator定義クライアントに対し、複数台のinterstage information integratorサーバを接続して使用することが可能です。
 また、1台のinterstage information integratorサーバに対し、複数台のinterstage information integrator定義クライアントを接続して使用することも可能です。
 ただし、いずれの場合も同時に複数台接続することはできません。

**【構成例4】 Interstage Information Integrator Standard Editionと
転送アクセラレーターのクライアント機能およびゲートウェイ機能を適用**



- Interstage Information Integrator Standard Editionに含まれる転送アクセラレーターのクライアント機能およびゲートウェイ機能を利用するには、Interstage Information Integrator Standard Editionに接続し、高速なデータ転送を行うクライアントアプリケーションが動作する機器 (Windows PCやスマートデバイス)の台数分、Interstage Information Integratorクライアントライセンスが必要です。

V11.3.0からV11.3.3の機能強化項目は、以下のとおりです。

1. Windows Server 2019サポート

【Interstage Information Integrator Standard Edition】

Windows Server 2019上での動作をサポートいたします。

- 運用管理クライアント機能
- 定義クライアント機能

2. 関連製品の対応

【Interstage Information Integrator Standard Edition】

【Interstage Information Integrator エージェント】

以下の関連製品の新しいバージョンに対応します。

- ・ Symfoware Server Enterprise Edition V12.6.0
- ・ Symfoware Server Standard Edition V12.6.0
- ・ Symfoware Server Enterprise Extended Edition V12.6.0
- ・ Oracle Database Enterprise Edition 19c
- ・ Oracle Database Standard Edition2 19c

・ オンラインマニュアル

- ・ Interstage Information Integrator システム設計ガイド
- ・ Interstage Information Integrator セットアップガイド
- ・ Interstage Information Integrator 運用ガイド
- ・ Interstage Information Integrator コマンドリファレンス
- ・ Interstage Information Integrator メッセージ集
- ・ Interstage Information Integrator 転送アクセラレーターセットアップガイド
- ・ Interstage Information Integrator マニュアル体系と読み方
- ・ Interstage Information Integrator リリース情報
- ・ Interstage Information Integrator 用語集
- ・ Interstage Information Integrator ESB連携機能導入運用ガイド

【メディア】

- ・ Interstage Information Integrator Standard Edition メディアパック (64bit) V11a (V11.3.3) (注1) (注2)
- ・ Interstage Information Integrator エージェント メディアパック (64bit) V11a (V11.3.3) (注2)

【ライセンス】

- ・ Interstage Information Integrator Standard Edition プロセッサライセンス (1年間24時間サポート付) V11a
- ・ Interstage Information Integrator エージェント プロセッサライセンス (1年間24時間サポート付) V11a
- ・ Interstage Information Integrator 1クライアントライセンス (1年間24時間サポート付) V11a
- ・ Interstage Information Integrator 20クライアントライセンス (1年間24時間サポート付) V11a

本商品のライセンス製品には、初年度の「SupportDesk Standard」がバンドルされています。

注1) 本メディアは以下のコンポーネントを含みます。

- Interstage Information Integrator 定義クライアント
- Interstage Information Integrator クライアント
- Interstage Information Integrator 転送アクセラレーター機能
- Interstage Information Integrator 転送アクセラレーターのゲートウェイ機能
- Interstage Information Integrator 転送アクセラレーターのクライアント機能

注2) 本メディアは以下のコンポーネントを含みます。

- Interstage Information Integrator 運用管理クライアント

1. メディアパックについて

メディアパックは、媒体（DVD）のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。また、商品の導入にあたり、最低1本のメディアパックが必要です。バージョンアップ/レベルアップを目的に本メディアパックのみを手配することはできません。

2. プロセッサライセンスについて

プロセッサライセンスは、本商品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要となるライセンスです。

- ・シングルコアプロセッサの場合は、1プロセッサ（CODモデルの場合はCPU RTUライセンスを持つ1稼働CPU）あたり1本の購入が必要です。
 - ・マルチコアプロセッサの場合は、コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。
 - SPARC M10では、CPUコアアクティベーションキーにより有効化されたコアの総数に特定の係数を乗じます。
 - SPARC Enterprise/PRIMEPOWERのCODモデルでは、CPU RTUライセンスを持つ稼働CPU上のコアの総数に特定の係数を乗じます。
- マルチコアプロセッサにおける係数については、「関連URL」に記載の「FUJITSU Software（インフォメーション&ダウンロード）」内、「富士通製ミドルウェア商品のライセンス体系について」を参照ください。

3. クライアントライセンスについて

転送アクセラレーターのクライアント機能を利用するために必要となるライセンスです。ただし、転送アクセラレーターのゲートウェイ機能はインストールフリーです。

Interstage Information Integrator Standard Editionをインストールしたサーバに接続し、高度なデータ転送を行う機器（Windows PCやスマートデバイス）の台数分、Interstage Information Integratorクライアントライセンスが必要です。

本ライセンスは、Windows、Linux、Solaris共通ライセンスです。

4. エージェントのプロセッサライセンス購入に関する注意事項

Interstage Information Integratorエージェントは通信先の業務システムのプラットフォームに合わせた製品を購入してください。

また、以下の機能を使用する場合は、Windows版Interstage Information Integrator エージェントを購入してください。

- Excel形式のデータ受け渡しを行う場合
- SQL Azureとのデータ受け渡しを行う場合

5. 運用管理クライアント機能について

運用管理クライアント機能は、Interstage Information Integrator Standard Editionサーバに接続して、業務の実行操作や運用状況の監視を行うことができます。

台数に関係なくサーバに接続して使用できます。

6. 定義管理クライアントについて

定義管理クライアントは、クライアント数に制限なくインストールできます。

7. クラスタシステムで運用する場合の購入方法について

本商品でサポートするクラスタ構成は、1対1運用待機形態です。

2ノードを1システムと考えて、1システムに本製品を1つ購入することで使用することができます。

8. 購入例

以下システム構成の場合、購入対象商品と購入数は下記のようになります。

注1：コア係数とは、マルチコアプロセッサにおける、コア総数に乗じる係数です。

注2：小数点以下は切り上げ。

【構成例1】 Interstage Information Integrator Standard Editionのみ使用する場合

Interstage Information Integratorサーバの導入サーバ(UltraSPARC T2 2CPU構成)クラスタ運用 :1台

Interstage Information Integrator 定義クライアント/運用管理クライアントの導入PC :1台

〔対象製品と購入数〕

- ・ Interstage Information Integrator Standard Edition メディアパック(64bit) V11a
インストール作業に必要な枚数
- ・ Interstage Information Integrator Standard Edition プロセッサライセンス V11a

(1)1台毎のコア総数 × マルチコア係数

2CPU × 8コア × コア係数(注1)(待機系のライセンスは不要)

(2)必要ライセンス数

(1)で算出した値(注2) × サーバ台数(1台)

【構成例2】 Interstage Information Integrator Standard EditionとInterstage Information Integratorエージェントを使用する場合

Interstage Information Integrator Standard Editionサーバの導入サーバ(UltraSPARC T2 2CPU構成) :
1台

Interstage Information Integrator 定義クライアント/運用管理クライアントの導入PC :1台

業務システムのサーバ(デュアルコア1CPU構成) : 2台

〔対象製品と購入数〕

- ・ Solaris版 Interstage Information Integrator Standard Edition メディアパック(64bit) V11a
インストール作業に必要な枚数
- ・ Windows版 Interstage Information Integrator エージェント メディアパック(64bit) V11a
インストール作業に必要な枚数
- ・ Windows版 Interstage Information Integrator エージェント メディアパック(64bit) V11a
インストール作業に必要な枚数
- ・ Solaris版 Interstage Information Integrator Standard Edition プロセッサライセンス V11a

(1)1台毎のコア総数 × マルチコア係数

2CPU × 8コア × コア係数(注1)(待機系のライセンスは不要)

(2)必要ライセンス数

(1)で算出した値(注2) × サーバ台数(1台)

- ・ Windows版 Interstage Information Integrator エージェント プロセッサライセンス V11a

(1)1台毎のコア総数 × マルチコア係数

1CPU × 2コア × コア係数(注1)

(2)必要ライセンス数

(1)で算出した値(注2) × サーバ台数(2台)

【構成例3】 Interstage Information Integrator Standard Edition を複数台のサーバで使用する場合
Interstage Information Integrator Standard Edition サーバの導入サーバ(UltraSPARC T2 2CPU構成)
:2台

Interstage Information Integrator 定義クライアント/運用管理クライアントの導入PC :1台

〔対象製品と購入数〕

- ・ Interstage Information Integrator Standard Edition メディアパック(64bit) V11a
インストール作業に必要な枚数
- ・ Interstage Information Integrator Standard Edition プロセッサライセンス V11a

(1)1台毎のコア総数 × マルチコア係数

2CPU × 8コア × コア係数(注1)(待機系のライセンスは不要)

(2)必要ライセンス数

(1)で算出した値(注2) × サーバ台数(2台)

【構成例4】 Interstage Information Integrator Standard Edition と転送アクセラレーターのクライアント機能およびゲートウェイ機能を使用する場合

Interstage Information Integrator Standard Edition サーバの導入サーバ(UltraSPARC T2 2CPU構成)
:1台

転送アクセラレーターのクライアント機能を導入した端末、スマートデバイス :16台

転送アクセラレーターのゲートウェイ機能を導入したサーバ :1台 (ゲートウェイ機能のライセンスは不要)

転送アクセラレーターのゲートウェイ機能に接続する端末 :5台

〔対象製品と購入数〕

- ・ Interstage Information Integrator Standard Edition メディアパック(64bit) V11a
インストール作業に必要な枚数
- ・ Interstage Information Integrator Standard Edition プロセッサライセンス V11a

(1)1台毎のコア総数 × マルチコア係数

2CPU × 8コア × コア係数(注1)(待機系のライセンスは不要)

(2)必要ライセンス数

(1)で算出した値(注2) × サーバ台数(1台)

- ・ Interstage Information Integrator 20クライアントライセンス × 1
- ・ Interstage Information Integrator 1クライアントライセンス × 1

9. V10以降からのバージョンアップ/レベルアップについて

V10以降の本商品をお持ちの場合は、有償サポート・サービス「SupportDesk」のサービスの一環として、最新バージョン/レベルを提供いたします。

「SupportDesk」を導入されていない場合は、新バージョン/レベル商品を改めてご購入頂く必要があります(価格の優遇はございません)のでご注意ください。

なお、「SupportDesk」の詳細については、弊社営業/SEにお問合せください。。

10. 旧商品からのバージョンアップについて

Interstage CollaborationRing File Transfer Integrator、Interstage CollaborationRing EDI Serverをお持ちの場合は、有償サポート・サービス「SupportDesk」のサービスの一環として、新バージョンを提供

いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

「SupportDesk」を導入されていない場合は、新バージョン/レベル商品を改めてご購入頂く必要があります（価格の優遇はございません）のでご注意ください。

なお、「SupportDesk」の詳細については、弊社営業/SEにお問合せください。

11. ダウングレード使用（旧バージョン または 旧レベル商品の使用）につい

て

本商品のライセンスでは、ダウングレード使用（本商品の旧バージョン または 旧レベルを使用）する権利はありません。

対象のバージョン または レベルを使用する場合は、対象のバージョン または レベルに対応したライセンスをご購入ください。

1. 運用管理クライアント機能を使用する場合

[Interstage Information Integrator Standard Editionを導入するサーバ]

運用管理クライアント（CGI版）を使用するにあたり、以下のいずれかのWebサーバが必要です。

- Interstage Application Server Enterprise Edition V13/V12/V11
- Interstage Application Server Standard-J Edition V12/V11
- Oracle WebLogic Server 10
- WebSphere Application Server V7

運用管理クライアント（サブレット版）を使用する場合は、以下のいずれかのWebサーバが必要です。

- Interstage Application Server Enterprise Edition V13/V12/V11
- Interstage Application Server Standard-J Edition V12/V11

[運用管理を行うPC]

運用管理クライアントを使用するにあたり、以下のいずれかのWebブラウザが必要です。

- Microsoft Windows Internet Explorer(注1) 11/10/9
- Firefox (注2)
- Safari (注2)
- Google Chrome (注2)

注1) Internet Explorer 11および10については、デスクトップ用Internet Explorerでの利用が可能です。

注2) Firefox、Safari およびGoogle Chrome の対応バージョンは「関連URL」に記載の「FUJITSU Software (Interstage Information Integrator)」を参照ください。

2. 定義クライアントを使用する場合

定義クライアントを使用するにあたり、以下のいずれかの商品が必要です。

[デザインシート]

- Microsoft Excel 2019/2016/2013/2010

注) 32bit版のみサポート

[定義作成/管理GUI(III Studio)]

- Interstage Studio Standard-J Edition V12/V11

3. ファイル転送機能を使用する場合

ファイル転送機能を使用する場合は、以下のいずれかの商品が必要です。

【FTP+連携時】

Interstage Information Integrator エージェントを導入することで実現可能ですが、以下のいずれかの商品選択可能です。

[相手システム]

- Linkexpress Enterprise Edition V5.0a
- Linkexpress Standard Edition V5.0a

- ・ Linkexpress File Transfer V10L10 (グローバルサーバ)

【HTTP連携時】

以下のいずれかの商品が必要です。

[相手システム]

- ・ Linkexpress Enterprise Edition V5.0a

【HULFT連携時】

自システムおよび相手システムに以下の商品が必要です。

- ・ HULFT 8/7/6 (株式会社セゾン情報システムズ)

4. 高速ファイル転送を行う場合

高速ファイル転送を使用するにあたり、以下のいずれかの商品が必要です。

- ・ Interstage Application Server Enterprise Edition V13/V12/V11
- ・ Interstage Application Server Standard-J Edition V12/V11

5. 転送アクセラレーター機能、転送アクセラレーターのゲートウェイ機能または、転送アクセラレーターのクライアント機能を使用するにあたり、以下のいずれかの商品が必要です。

- ・ Interstage Application Server Enterprise Edition V13/V12/V11
- ・ Interstage Application Server Standard-J Edition V12/V11

6. データベースを使用する場合、以下の商品が利用可能です

- ・ Symfoware Server Standard Edition V12(Native)/V11
- ・ Symfoware Server Enterprise Edition V12(Native)/V11
- ・ Symfoware Server Enterprise Extended Edition V11
- ・ Oracle Database Enterprise Edition 19c(注1)
- ・ Oracle Database Standard Edition2 19c(注1)
- ・ Oracle Database 12c Standard Edition R12.2.0/R12.1.0(注1) (注2)
- ・ Oracle Database 12c Enterprise Edition R12.2.0/R12.1.0(注1) (注2)
- ・ Oracle Database 12c Standard Edition 2 R12.2.0/R12.1.0(注1) (注2)
- ・ Oracle Database 11g Standard Edition R11.2.0, R11.1.0(注1)
- ・ Oracle Database 11g Enterprise Edition R11.2.0, R11.1.0(注1)
- ・ Oracle Database 11g Standard Edition One R11.2.0, R11.1.0(注1)
- ・ IBM DB2 9.7 for Linux, UNIX and Windows, Express Edition(注1)
- ・ IBM DB2 9.7 for Linux, UNIX and Windows, Workgroup Server Edition(注1)
- ・ IBM DB2 9.7 for Linux, UNIX and Windows, Enterprise Server Edition(注1)
- ・ Microsoft SQL Server 2017 Standard(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2017 Enterprise(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2016 Standard(注1)(注3)

- ・ Microsoft SQL Server 2016 Enterprise(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2014 Standard(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2014 Enterprise(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2012 Standard(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2012 Enterprise(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2008 R2 Standard(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2008 R2 Enterprise(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2008 R2 Datacenter(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2008 Standard(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2008 Enterprise(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2005 Standard(注1)(注3)
- ・ Microsoft SQL Server 2005 Enterprise(注1)(注3)
- ・ SQL Azure(注3)

注1)クライアントコンポーネントをインストールすることで利用可能です

注2)Oracle Databaseのクライアントは、"Oracle Database 11g Release 2 Client for Solaris Operating System (SPARC)"を使用してください。

注3)Windows版Interstage Information Integrator エージェントを介して、データベースが利用可能です

7. クラスタ運用を行う場合

クラスタ運用を行う場合は、以下のいずれかの商品が必要です。

本商品でサポートする待機形態は、1対1運用待機です。

- ・ PRIMECLUSTER 4.3以降

8. 帳票連携を行う場合

帳票連携を使用するにあたり、以下のいずれかの製品が必要です。

- ・ Interstage List Creator Enterprise Edition V10
- ・ Interstage List Creator Standard Edition V10
- ・ Interstage List Creator Connector V10 (注)

注) リモート帳票出力を行う場合に必要です。

帳票定義の取り込みを行う場合は、以下の商品が必要です。

- ・ Interstage List Creator デザイナ V10

9. サービスバス連携を行う場合

サービスバス連携を行う場合、以下の商品が必要です。

- ・ Interstage Service Integrator Enterprise Edition V9.6.1

10. クラウド連携を使用する場合

クラウド連携を使用するにあたり、以下のいずれかの製品が必要です。

- ・ Interstage Application Server Enterprise Edition V13/V12/V11
- ・ Interstage Application Server Standard-J Edition V12/V11

11. Excel連携を行う場合

Excel連携を使用するにあたり、以下のいずれかの商品が必要です。

- ・ Microsoft Excel 2013/2010

注) 32bit版のみサポート

12. データ変換・編集を行う場合

以下に示すデータ変換・編集を行う場合、以下のいずれかの商品が必要です。

- 伝票形式のデータ変換
- XML形式のデータ変換
- 可変繰返し項目を含むデータ変換

- ・ Interstage Application Server Enterprise Edition V13/V12/V11
 - ・ Interstage Application Server Standard-J Edition V12/V11
-

13. BLOB収集・配付を行う場合

BLOB収集・配付を行う場合、以下のいずれかの商品が必要です。

- ・ Interstage Application Server Enterprise Edition V13/V12/V11
- ・ Interstage Application Server Standard-J Edition V12/V11

なし

1. Windows サーバOS (64-bit)上での動作

本商品の定義クライアント、運用管理クライアント機能、転送アクセラレーターゲートウェイ機能は、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32bitアプリケーションとして動作します。

- Windows Server 2019(64-bit)
- Windows Server 2016(64-bit)

注)Windows 32-bit On Windows-64bit

2. Windows デスクトップOS(64-bit)上での動作

本商品の定義クライアント、運用管理クライアント機能、転送アクセラレータークライアント機能は、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32bitアプリケーションとして動作します。

- Windows 10(64-bit)
- Windows 8.1(64-bit)

注) Windows 32-bit On Windows-64bit

3. Intel64環境での動作について

本商品は、以下のディストリビューションの環境で64ビットアプリケーションとして動作します。

- Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)

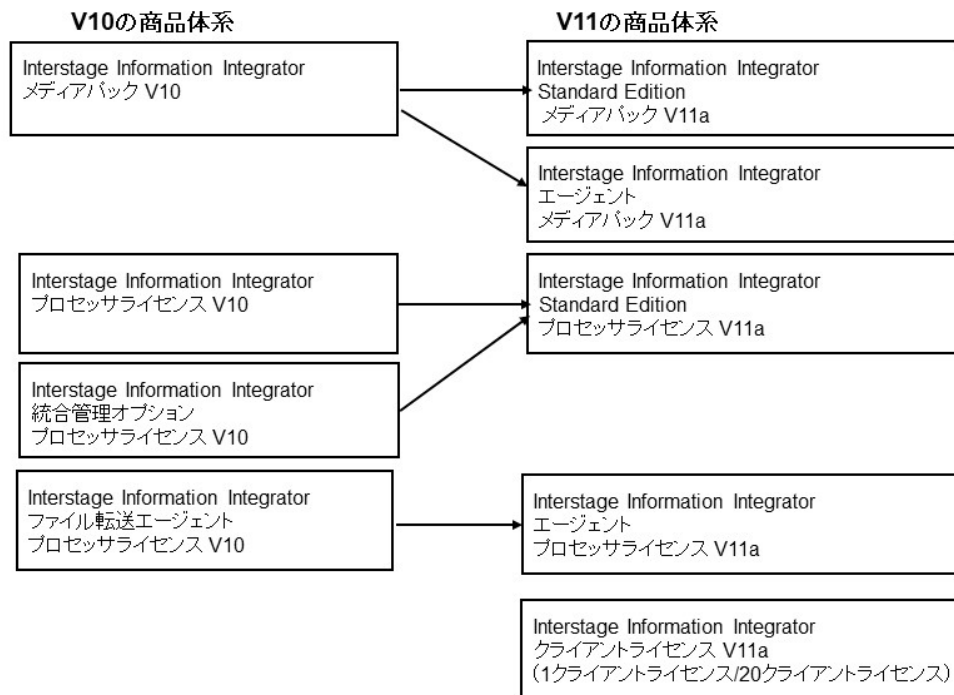
4. 32bit版のInterstage Information Integrator エージェントの統合管理を

行う場合の留意事項

Interstage Information Integrator エージェントの統合管理を行う場合、Interstage Information Integrator エージェントとInterstage Information Integrator Standard Editionは同一レベルにする必要があります。

5. V10からの商品体系

V10からの商品体系



- *Interstage Information integratorとInterstage Information Integrator 統合管理オプションは、Interstage Information Integrator Standard Editionに統合されます。
- *Interstage Information Integrator ファイル転送エージェントは、Interstage Information Integrator エージェントに商品名を変更します。
- *Interstage Information Integrator クライアントライセンスは、V11から新規追加。

6. Symfoware Server組込みに関する留意事項

本商品には、以下のSymfoware Serverが組み込まれています。

- Symfoware Server Enterprise Edition V12.6.0 (Native)

本商品に組み込まれているSymfoware Serverは、本商品の内部制御用に使用します。業務用のデータベースを作成する場合は、製品版のSymfoware Serverを使用してください。また、同一マシン上にSymfoware Server と Symfoware 組込み製品をインストールする場合、または同一マシン上にSymfoware組込み製品同士をインストールする場合、共存できない場合があります。詳細情報につきましては、弊社営業/SEにお問合せください。

7. IPv6での動作についての注意点

IPv6/IPv4デュアルスタック環境での運用のみをサポートします。

8. 転送アクセラレーター機能および転送アクセラレータークライアント機能

の接続先における注意点

Interstage Information Integrator Standard Edition V11.0.2までは、転送アクセラレーターを適用するためには、高速化対象アプリケーションの通信相手として本商品を設定する必要がありましたが、V11.2.0以降ではその設定変更は不要となります。ただし本機能は以下のプラットフォームのみサポートとなります。

- 。
 - Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)
 - Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)
 - Windows Server 2016(64-bit)
 - Windows 10(64-bit)

- Windows 8.1(64-bit)
- Windows 8.1

9. スマートデバイスを利用した運用について

本商品の転送アクセラレーターのクライアント機能は、スマートデバイスでのアプリケーションを利用した運用に対応しています。

詳細は、「関連URL」に記載の「FUJITSU Software(スマートデバイスにおける動作条件)」を参照してください。

なお、スマートデバイスを利用した運用についての留意事項を以下に記述します。

(1)内蔵メモリ、データフォルダ容量について

内蔵メモリ容量 : 1GB以上推奨

データフォルダ容量 : 30MB以上

(2)スマートデバイスへの導入

以下のいずれかの方法により、スマートデバイスにInterstage Information Integrator Standard Editionメディアパック内の転送アクセラレーターのクライアント機能を導入する必要があります。

- ・転送アクセラレーターのクライアント機能を電子メールで各スマートデバイスへ配付してインストール
- ・転送アクセラレーターのクライアント機能をお客様の管理部門にてWebサーバで公開し、スマートデバイスへダウンロードしてインストール

(3)必須ソフトウェア

通信先の業務サーバに以下の製品を導入する必要があります。

- Interstage Information Integrator Standard Edition V11a

10. 排他ソフトウェア

Interstage Service Integratorは、本商品と動作モードが異なる場合、排他ソフトウェアです。

Interstage Service Integratorと組み合わせる場合は、動作モードが同じものを選択してください。

11. 転送アクセラレーターのゲートウェイ機能の適応機種/適応OSについて

本資料冒頭の適用機種 / 適応OSの他に以下にも適応します。

【適応機種】

PRIMEQUEST 3000シリーズ

PRIMEQUEST 2000シリーズ

PRIMERGY

FMV

マルチベンダーサーバ・クライアント

【適応OS】

Windows Server 2019(64-bit)

Windows Server 2016(64-bit)

Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)

Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)

12. 旧版との差異

V11.3.3より、以下のOSはサポート対象外となります。

- ・ Interstage Information Integrator Standard Edition サーバ
- ・ Interstage Information Integrator エージェント
- ・ 転送アクセラレーター機能
- ・ 転送アクセラレーターのゲートウェイ機能

- Solaris 10

- ・ 定義クライアント機能
- ・ 転送アクセラレーターのクライアント機能

- Windows 7

- Windows Server 2008

- Windows Server 2008R2

- Windows Server 2012

- Windows Server 2012R2

お客様向けURL

- **FUJITSU Software (Interstage Information Integrator)**

本商品の詳細は、以下のInterstageホームページを参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/middleware/business-middleware/interstage/products/infointegrator/>

- **FUJITSU Software (スマートデバイスにおける動作条件)**

スマートデバイスでの動作条件情報を提供しております。

<http://www.fujitsu.com/jp/software/smartdevice/>

- **FUJITSU Software (インフォメーション&ダウンロード)**

「ライセンスについて、くわしく知る」の項で富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポート期間などの情報を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/>